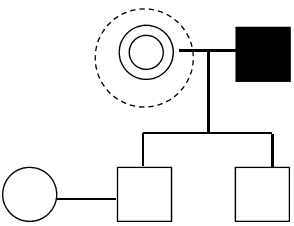


事例検討の中核となる部分です。できるだけ具体的に記載してください。

事例のタイトル	周囲の人をふりまわすKさんと息子へのかかわり方
事例の提出理由 (「気になっていること」や「見つめなおしたいこと」など)	華道家として華々しい人生を過ごし、要介護状態となった現在もかつてのお弟子さんたちを家政婦のように使うKさん。お弟子さんたちはだんだん本人の元を離れていき、ヘルパーやケアマネジャーに対する依存心が高まっている。本人が自立心を高め、必要以上にサービスに依存しないような関係を築くためにどうすれば良いか検討したい。

1 利用者の状況

個人情報に注意

名前	K さん	年齢	81 歳	性別	女	要介護度	要介護1
相談経緯	外出先で転倒し大腿骨を骨折し入院。退院時に認定申請し要介護1となったため包括を経由して支援を開始。(亡夫の担当を当事業所で担当していた)						
主訴希望	これまで通りに自宅で生活したい。お弟子さんたちはいろいろと世話をしてくれるからそれほど必要はないがヘルパーさんには来てほしい。						
日常生活自立度	障害	A 2		家族構成	長男 (57) : 他県在住 次男 (50) : 外国在住		
	認知症	II a					
既往症 現症	変形性腰椎症 (H20) 変形性膝関節症 (H20) 狭心症 (H26) アルツハイマー型認知症 (H29) 大腿骨骨折 (H30)			ジェノグラム			
生活状況 (生活機能)	心身機能 身体構造	股関節の可動域制限があり (床からの立ち上がり不可) 軽度の短期記憶障害と実行機能障害, 注意障害あり					
	活動	ADL	基本的には自立。屋内はつたい歩き。移動時にふらつきがあり転倒の危険性がある。排泄は間に合わず失敗することがある。				
		IADL	調理, 買い物は弟子またはヘルパーが実施。洗濯自力で実施している。金銭管理がだんだん難しくなっている。				
	参加・役割	華道家の師範代として現在も弟子を指導している。近隣住民との関係は挨拶をする程度。亡夫は自治会長等をしていた。					
物理的環境(住環境等)	閑静な住宅街の戸建てに居住。坂道が多く外出には付添が必要。						

できるだけ本人の言葉で

(裏面につづく)

必要に応じて記入欄を拡げていただいて構いません。

ICFの枠組みを意識して情報を整理して記載してください

2 かかわっている機関や人、頻度や内容(インフォーマルサポートを含む)

かかわっている人・機関	頻度	内容
M医師 (Mクリニック)	1回/2週	診察, 処方, 相談
長男	1回/月	買い物, 銀行口座からの出金, 外出付添など
ホームヘルパー	3回/週	買い物, 掃除, 通院付添い
お弟子さん (Oさん)	4回/週	買い物, 調理
ケアマネジャー	1回/月	相談支援
民生委員	不定期	状況の確認, 相談支援等

全ての欄を記入する必要はありません。

3 担当者が考えるこの利用者に対する支援の方向性

本人が自宅での生活を継続できるように, お弟子さんや長男では難しい部分を介護サービスによって補う。廃用症候群の予防も大切だが, 本人は通所型のサービス利用意向がないので様子を見ながら勧めていく。

どうしても記入が難しい場合は「総合的な援助の方針」の転記も可。

4 支援経過(転機ごとにポイントを記載)

年月	経過概要
H30.11	退院前カンファレンス開催。初めて本人に会う。
H30.12	年末年始のホームヘルプサービス調整が不可能であったためショートステイを提案するが「大丈夫。たくさん人が来てくれるから」と自宅で過ごす。毎日, お弟子さんが代わる代わる来てくれたとのこと。
H30.3	本人から「ヘルパーの利用回数を増やしたい」と相談を受ける。お弟子さんが来ない日の食事に困っているとのこと。ヘルパーが3回/週となる。
H30.8	脱水で入院。病院でたまたま出会ったOさんから「実は私の親も要介護で, この頃先生(本人)のところに通うのが負担なんです」と相談される。退院後の支援について本人と話し合うがサービスを増やすことに反対し, 週3回のヘルプのみとなる。
H30.11	ヘルパーから相談。本人宅に訪問すると予定にない用事をあれこれ言われ対応に困っている。サービス担当者会議でサービス内容を再度確認。「計画されていない内容の支援はできないんです」と説明すると納得している様子。
H31.1	肺炎で入院。「お見舞いに来て」と再三ケアマネジャーに電話がある。

ポイントのみの記載で構いません。

5 事例提出者の属性

氏名	芦屋 令子		勤務先	芦屋いきいきケアプランセンター	
実務経験	3年6か月	その他の資格・職種	介護福祉士	勤務形態	常勤